

一般公開シンポジウム

自己： インド宗教哲学 VS. 脳科学

講演

認識と世界

—インド哲学は「外界」をどう説明するか

山下 博司 [教授, Ph.D.]

東北大学大学院国際文化研究科

目の前にひらけた世界は、見えているとおりに実在するの？外界の対象はどのようなプロセスで把握されるの？「知覚」の成立をどのように説明するの？—インドの古典哲学や神学理論が用意する答えのいくつかを紹介し、古代の叡智と現代脳科学の接点を探りたいと思います。

講演

エージェンシーの 脳神経メカニズム

—運動主体としての自己の認知—

蓬田 幸人 [MD, Ph.D.]

日本学術振興会特別研究員
東北大学加齢医学研究所脳機能開発研究分野

我々は自らが行う運動に対して「この運動を引き起こしているのは自分だ」という自己帰属の感覚を持つことができる。この感覚はエージェンシーと呼ばれ、「運動主体としての自己」を他者から区別して認識するために重要な役割を果たしている。機能的MRIを使用した脳機能イメージングの手法を用いて、このエージェンシーの成立に関わる脳神経メカニズムを探った。

参加無料

申し込み不要

先着70名様
入場可

講演

無常・無我・苦： さとりへの世界を 科学する

[教授, Ph.D.] 宮本 正夫

東北大学大学院国際文化研究科
附属言語脳認知総合科学研究センター・センター長

量子論(M-theory)、(臨濟)禅、知覚心理学、脳科学、パーリ語仏教の経(Suttanta)と論(Abhidhamma)などから引用しながら、瞬時・瞬時に起こっては消え去る感覚情報とそれらから派生する想念を、あるがままに「無常・無我・苦」と観ることが、さとりへの道を歩むことであると易しく解説する。

日時 **2月12日(土)** 12:30~16:30

場所 **仙台国際センター 小会議室2**

